

理論編  
実践編

宇宙意識という視座

# Dr. for the Earth

地球のお医者さん

平井孝志

オーガニック農法・農業編・畜産編

オーガニックで健康ライフ

## 生命の系

循環と共生の根理

科学と経済の陥穽

## 物質の系

## あとがき

環境に対する視座は、自らが内包される大自然に下座することから始まる。そうするためには、宇宙から地球を鳥瞰する視点が必要であろう。そこから見えるものは、地球が宇宙の自発性によってバランスと循環を保つ姿である。

「自然は自然が決める」のであるが、人類の知識は「自然は人間が決める」という錯覚を生み出している。「自然のやってなさんことをしなさんな」と言っても、最新の技術が「古くならない技術」よりも優れていると感じてしまう。

現代社会を占有する経済システムは、環境に対する無責任を制度化したものに他ならない。科学と経済の陥穽かんせいを知れば、実体経済が自動的に環境に配慮する「エコビリティの世紀」も見えてくるだろう。

「生命の系」と「物質の系」、双方とも現代人には必要不可欠な二系である。それらをどのように観るか、二系の合一が理想と書いたが、それは、生命の系の理に操られながら、物質の系の技術を磨くということでもあろう。

二天一流。両の手に刀を持ち、二刀を自在に操る剣。創始は江戸時代の剣豪、ご存知、宮本

武蔵である。当時も今も、両手に一本の剣が主流で二刀流は珍しい。武蔵ほどの剣豪でなければ二刀流は難しいのであろうか。

吉川英治著「宮本武蔵」（講談社）の中で、「どれほどの力量があったら、二刀を自由に使いこなせるものか」との問いに対して、武蔵は次のように答えている。

「二刀も一刀。一刀も二刀。左右の手はあるも体は一体。すべてにおいて、道理にふたつなく、理の窮極においては、何流何派といえど変わりのある訳はござらぬ。」

片手に生命の系、もう一方に物質の系。百人いれば百人の技法があるうが、二天を抱くも、「扇の要」にあるのは心なのである。心、それは、移ろい易く定まり難いものである。自然の摂理をしっかりと観、将来世代へ受け渡していく模範となるべき決意に基づいた行動が求められている。

時は失いやすく得難きものである。明日からではなく今日から、そのうちにはなく今から、自分の立場やフィールドで実践することが肝要である。

環境保全や環境問題に関して、その規模の大小にかかわらず、真摯に取り組んでおられる方、実践し行動する人々、それらの人々はすべて「地球の医者」なのである。

本書の企画をいただいて以来、正食協会・山口徹平氏には遅々として進まない作業を根気強く見守っていただき、編集に関しては片山明彦氏にお世話になりました。また、草稿の段階から森田通夫氏、川上伸二氏、平井英明氏、藤井淳生氏、山村友宏氏を始め、多くの方々から貴重な助言とご尽力をいただきました。ここに記し感謝申し上げます。

ありがとうございます。

一九九九年初秋

平井芳典

## ご注意

- 1 掲載文書は執筆時の生データを基にしていますので、推敲を経て実際に出版された文章とは若干違う場合があります。悪しからずご了承下さい。
- 2 リンクはどのページでも確認不要です。
- 3 商品宣伝・商用目的の引用についてはお断りする場合があります。
- 4 本サイトに掲載されている記事・コラム・解説文・写真・その他すべての無許可転載を禁止します。あらゆる内容は日本の著作権法及び国際条約によって保護を受けています。